

4. 広島型建築プロポーザルの成果

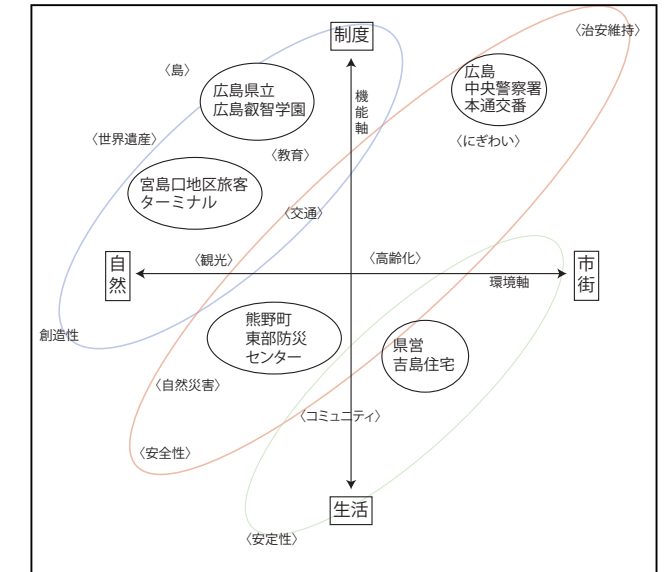
4.1. 広島型建築プロポーザルによる建築群

2013年に始まった広島型プロポーザルは、現在まで20の県事業、39の市町事業が実施され、すでに総計59の事業で設計者を選定している（2021年現在）。ここではその中でも近年竣工、もしくはプロポーザルが実施された、県営吉島住宅（プロポーザル2013年、竣工2015年）、厳島港宮島口地区旅客ターミナル（プロポーザル2016年、竣工2020年）、広島県立広島観智学園中学校・高等学校（プロポーザル2016年、竣工2019年（第一期））、熊野町東部防災センター（プロポーザル2019年、竣工2021年）、広島中央警察署本通交番（プロポーザル2020年、完成未定）を取り上げて、

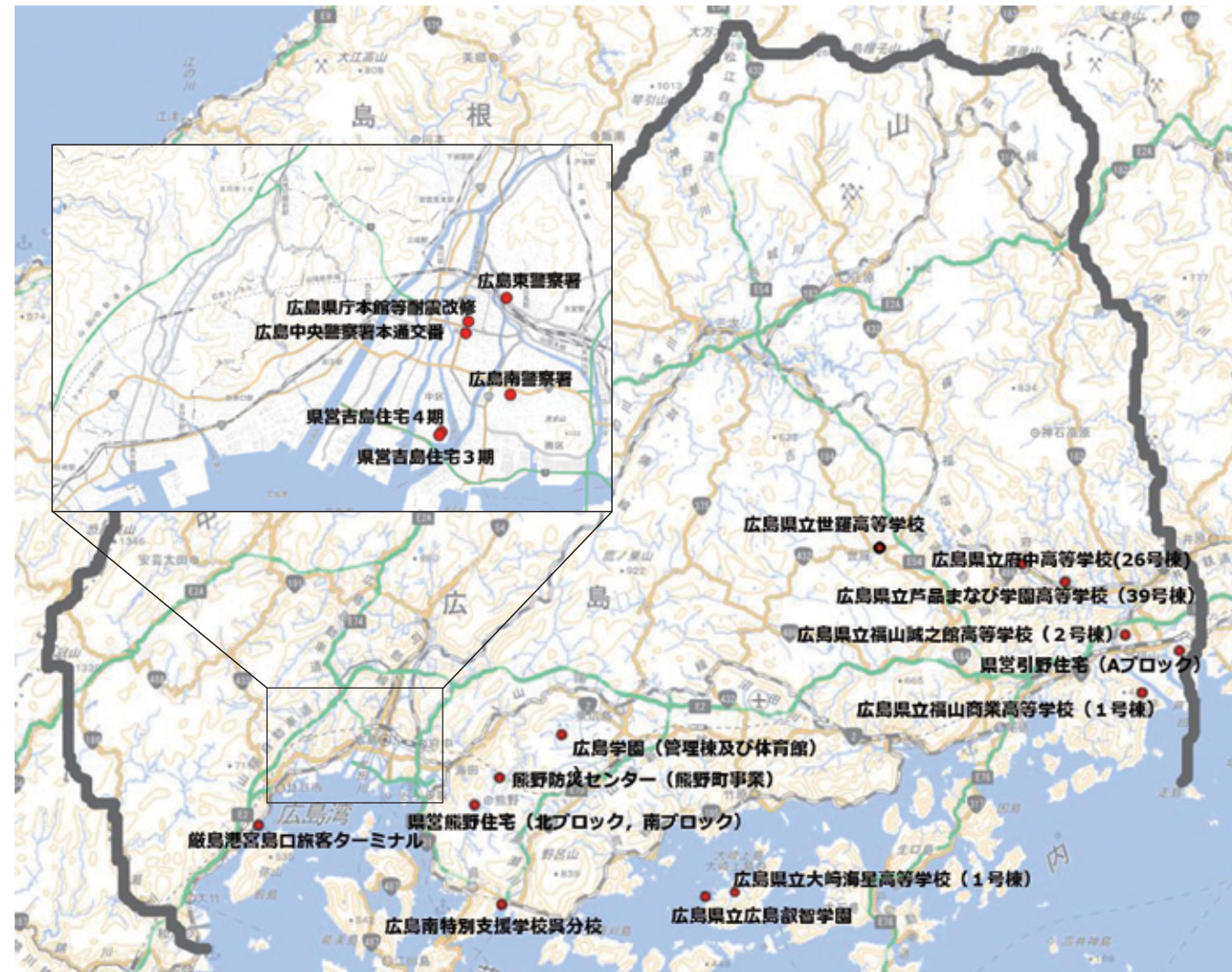
その内容を確認しておきたい。

仮説的ではあるが、立地する環境と各建築が果たすべき機能の二軸で布置してみると、これらの事業は右図のように整理できる。まずは立地する環境で見ると宮島口地区旅客ターミナル、観智学園、東部防災センターは、豊かでありながら時に厳しい表情を見せる広島の自然にどのように対応するかがテーマとなっており、本通交番、吉島住宅は、市街中心部、郊外という違いはあるものの都市的な環境の中でどのように生活するかがテーマとなっている。一方、機能で見ると治安維持や教育といった制度の再帰性と生活やコミュニティの維

持が目標となっている。ここに上げた5つでは、優れた建築提案の採用によって、観光の結節点としてのポテンシャル(宮島口)や自然環境と教育の融合(観智)、防災コミュニティの顕在化(熊野)、都市中心街における治安と市民協同の調整(本通)、郊外において安心して住まうこと(吉島)といったそれぞれのテーマが具現化されている。

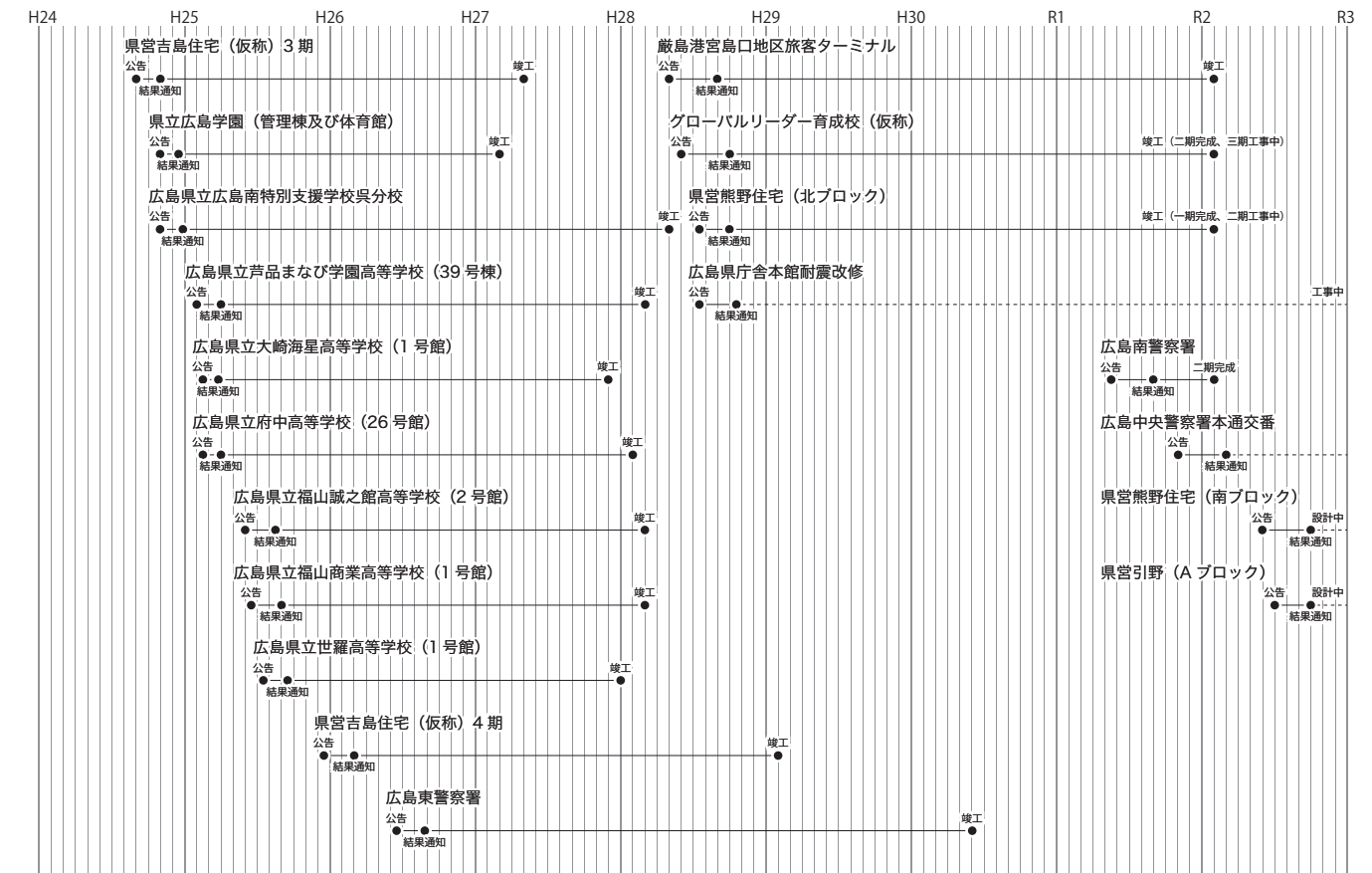


本誌で取り挙げるプロジェクトにおける社会の位置づけ



広島型プロポーザルによる事業分布

出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/) ※広島県が加工し作成



事業タイムライン